

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	備品減価償却累計額	130,000	備品	600,000
	減価償却費	120,000	固定資産売却益	50,000
	未収入金	400,000		
2	給料	500,000	所得税預り金	20,000
			社会保険料預り金	30,000
			当座預金	450,000
3	現金	1,025,000	貸付金	1,000,000
			受取利息	25,000
4	未収入金	497,000	有価証券	505,000
	有価証券売却損	8,000		
5	現金	3,400	現金過不足	3,400

・解説

1. 固定資産の売却・未収入金に関する問題です。

固定資産は期首に売却する場合と、期中（または期末）に売却する場合とで処理が異なるので、まず問題がどちらに該当するのか確認しましょう。

■期首に固定資産を売却する場合

当期の減価償却費はゼロなので、取得原価から期首備品減価償却累計額を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

$$\text{売却時の帳簿価額} = \text{取得原価} - \text{期首備品減価償却累計額}$$

■期中（または期末）に固定資産を売却する場合

当期の減価償却の処理に関する指示が入るので、それによって当期の減価償却費を（月割で）計算します。そのうえで、取得原価から期首備品減価償却累計額&当期の減価償却費を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

$$\text{売却時の帳簿価額} = \text{取得原価} - \text{期首備品減価償却累計額} - \text{当期の減価償却費}$$

■本問はどっち？

問題文の「平成 27 年 3 月 15 日に ¥ 400,000 で売却」「決算日は 3 月 31 日」から期中に売却したことがわかります。また、問題文に「減価償却費は月割りで計算する」という指示があるので、まず当期の減価償却費を計算します。

なお、減価償却費を月割りで計算する場合は、1 か月のうち 1 日でも使ったら 1 か月使ったと仮定して金額を計算します。「15 日間だから半月分…」と計算しないように気をつけてください。

- ・平成 26 年度：12 か月（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 15 日）

$$600,000 \text{ 円} \div 60 \text{ か月 (5 年)} = 10,000 \text{ 円} / \text{月}$$

$$10,000 \text{ 円} / \text{月} \times 12 \text{ か月} = 120,000 \text{ 円}$$

次に、期首備品減価償却累計額を計算しますが、平成 24 年度については **1 か月分**（平成 25 年 3 月 15 日～平成 25 年 3 月 31 日）なので間違えないように気をつけてください。

- ・平成 24 年度：1 か月（平成 25 年 3 月 16 日～平成 25 年 3 月 31 日）
- ・平成 25 年度：12 か月（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

$$600,000 \text{ 円} \div 60 \text{ か月 (5 年)} = 10,000 \text{ 円} / \text{月}$$

$$10,000 \text{ 円} / \text{月} \times 13 \text{ か月} = 130,000 \text{ 円}$$

当期の減価償却費と期首備品減価償却累計額の金額を計算したら、取得原価からこれらを差し引いて売却時の帳簿価額を計算します。最後に、売却時の帳簿価額と売却価額との差額で売却損益を計算します。

$$\text{取得原価 } 600,000 \text{ 円} - \text{期首備品減価償却累計額 } 130,000 \text{ 円} - \text{当期の減価償却費 } 120,000 \text{ 円} = 350,000 \text{ 円}$$

- ・売却時の帳簿価額 = 350,000 円
- ・売却価額 = 400,000 円
- ・差額 = 50,000 円（帳簿価額 < 売却価額…**売却益**）

★解答仕訳

(借) 備品減価償却累計額	130,000	/	(貸) 備	品	600,000
(借) 減 価 償 却 費	120,000	/	(貸) 固 定 資 産 売 却 益		50,000
(借) 未 収 入 金	400,000				

固定資産の売却に関する問題は、第 102 回の問 2、第 105 回の問 2、第 108 回の問 1、第 115 回の問 4、第 119 回の問 5、第 120 回の問 3、第 122 回の問 5、第 132 回の問 2、第 134 回の問 1、第 135 回の問 3、第 136 回の問 2、第 137 回の問 3、第 138 回の問 2、第 146 回の問 2、第 149 回の問 5 でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 所得税の源泉徴収に関する問題です。

この問題は【預り金に関する仕訳】【残額の処理に関する仕訳】の 2 つに分けて考えましょう。

【預り金に関する仕訳】

まず「所得税の源泉徴収分 ￥20,000 と、従業員が負担すべき社会保険料 ￥30,000 を差し引き」ですが、これは所得税や社会保険料を給料から天引きしておいて、後で会社がまとめて納税・納付するものなので、天引き段階では「所得税預り金」「社会保険料預り金」勘定で処理します。

★解答仕訳①

(借) 給	料	50,000	/	(貸) 所 得 税 預 り 金	20,000
				(貸) 社 会 保 険 料 預 り 金	30,000

【残額の処理に関する仕訳】

最後に残額の振り込みに関する仕訳ですが、これは簡単なので特に問題ないと思います。

★解答仕訳②

(借) 給 料 450,000 / (貸) 当 座 預 金 450,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

所得税の源泉徴収に関する問題は、第100回の間3や第101回の間3、第102回の間4、第106回の間5、第109回の間2、第117回の間4、第121回の間2、第128回の間4、第131回の間4、第140回の間4、第143回の間5、第145回の間5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 貸付金の回収に関する問題です。

元本(1,000,000円)の回収に関しては貸付金勘定を減額するとともに、同額だけ現金勘定を増額します。

換金性の高い(=銀行に持っていけばすぐに現金に交換できる)他店発行の小切手は簿記上では現金として取り扱うので、これを受け取った場合は現金勘定を増額する、という点に気をつけてください。

なお、当店発行の小切手を受け取った場合は、振出時に減額した当座預金勘定を元に戻す(増額する)こととなります。こちらも頻出論点の1つですので、セットで押さえておいてください。

- ・他店発行の小切手を受け取った場合：現金勘定を増額する
- ・当店発行の小切手を受け取った場合：当座預金勘定を増額する

一方、利息の受け取りについては、問題文の「期間10か月」という部分を見落とさないように注意してください。問題文を読んだときに丸で囲むなり、ラインを引くなりして目立たせておくと良いと思います。

$$\text{受取利息} = 1,000,000 \text{円} \times 3\% \times 10 \text{か月} / 12 \text{か月} = 25,000 \text{円}$$

貸付金の回収に関する問題は、第104回の間5や第114回の間4、第122回の間2、第132回の間1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 有価証券の売却・未収入金に関する問題です。

まずは、売買手数料を考慮せずに「帳簿価額」と「売却価額」との差額を売却損益で処理しましょう。

- ・帳簿価額：505,000円
- ・売却価額：500株 × @1,000円 = 500,000円
- ・貸借差額：505,000円 - 500,000円 = 5,000円 (帳簿価額 > 売却価額 → 売却損)

なお、売却代金はまだ受け取っていないので、未収入金で処理します。

★解答①

(借) 未収入金 500,000 / (貸) 有価証券 505,000

(借) 有価証券売却損 5,000

次に、売買手数料 3,000 円の処理を考えましょう。

売却に発生する手数料は通常、支払手数料などの勘定で費用処理しますが、本問は問題で列挙されている勘定科目の中に支払手数料がないので、**売却損益に含めて処理する**と判断しましょう。

■有価証券売却に手数料が発生した場合の処理

- ・原則：支払手数料などで費用処理する
- ・例外：売却損益に含めて処理する

★解答②

(借) 有価証券売却損 3,000 / (貸) 未収入金 3,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

有価証券の売却に関する問題は、第 102 回の問 5や第 110 回の問 1、第 116 回の問 5、第 118 回の問 1、第 123 回の問 4、第 126 回の問 4、第 131 回の問 1、第 147 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 現金過不足に関する問題です。

現金過不足の処理は簿記 3 級の頻出論点のひとつなので、必ず解き方をマスターしておきましょう。

本問はまず、金庫の中に入っているものの中から、現金として処理する**通貨**と**通貨代用証券**をピックアップします。

- ・紙幣・硬貨 123,400 円：**現金**
- ・得意先振出しの小切手 20,000 円：**通貨代用証券**
- ・約束手形 25,000 円：受取手形で処理する
- ・郵便切手 3,000 円：通信費で処理する
- ・収入印紙 4,000 円：租税公課で処理する
- ・配当金領収証 5,000 円：**通貨代用証券**

ピックアップした結果、現金の実際有高が 148,400 円であることが分かるので、帳簿残高とのズレを現金過不足を使って修正しましょう。

現金の実際有高：123,400 円 + 20,000 円 + 5,000 円 = 148,400 円

現金の帳簿残高：145,000 円

ズレ (差額)：148,400 円 - 145,000 円 = **3,400 円**

なお、現金過不足の仕訳を考えるさいは常に**実際有高に合わせる**のがポイントです。本問の場合、実際有高のほうが 3,400 円多いので、同額だけ現金の帳簿残高を増やしてズレを調整します。

★解答・帳簿残高と実際有高のズレを修正する仕訳

(借) 現金 3,400 / (貸) 現金過不足 3,400

現金過不足に関する問題は、第 110 回の問 4や第 111 回の問 4、第 115 回の問 1、第 117 回の問 1、第 123 回の問 2、第 133 回の問 4、第 135 回の問 1、第 147 回の問 1、第 150 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。